〒398-0002　長野県大町市大町 8056-1
TEL. 0261-22-0211 FAX. 0261-21-2133
E-mail:sanpaku@city.omachi.nagano.jp
URL:http://www.omachi-sanpaku.com
市立大町山岳博物館公式 Web サイトは、
大町山岳博物館友の会の支援により博物館が運用しています。

OMACHI ALPINE MUSEUM
市立 大町山岳博物館

山と博物館

「山と博物館」は、大町市役所および市内社会教育施設で、設置・配布しているほか、博物館公式 Web サイトからもご覧いただけます。

11 月号
第 62 巻　第 10 号
2017 年

無 料
Free

もくじ

今月の１枚 …… １ページ
・「秘境　カクネ里とは」講演会・エクスカーション
付属園だより …… ２・３ページ
・山岳博物館におけるライチョウの繁殖（その２）
イベントのご案内 …… ３ページ
・木崎湖　冬のバードウォッチング
博物館のひろば …… ４ページ
・「韓国国立山岳博物館・山林庁チーム」面談・見学
・「職業体験学習」を受け入れました
・長野県山岳総合センター講座「もっと知りたい、大町の山！」に講師を派遣しました
・「公益財団法人とやま環境財団」の皆さんが研修事業として来館されました
・共同企画展の「ミュージアムトーク」を開催しました
・「学校との連携授業」を行いました

博物館施設案内
はこちら

見え隠れするカクネ里

「秘境 カクネ里とは」講演会・エクスカーション

千葉　悟志

山岳博物館の創立50周年を機に大町市が「山岳文化都市宣言」をしてから今年で15年になります。そこで、博物館・長野県山岳総合センター・大町山岳博物館友の会では、株式会社 五竜（白馬五竜高山植物園）様の協力のもと、今年３月で解団した鹿島槍ヶ岳カクネ里雪渓（氷河）総合学術調査に参加され、氷体の調査にあたられた福井幸太郎さん（富山県立山カルデラ砂防博物館主任学芸員）をお招きして、カクネ里の自然の魅力について９月23日（土）にご講演いただきました。

調査は天候不順や険しいルートが行く手を阻み、厳しい条件のもと遂行され、貴重な成果をあげられたお話から、諸外国での氷河調査にも話がおよび世界からみた日本の氷河、またカクネ里の自然環境について参加の皆さまには改めて興味・関心を高めていただけたのではないでしょうか。

翌日は、エクスカーションを小遠見山で開催し、眼前に見るカクネ里に各々が思いを馳せ、見え隠れするカクネ里の風景をご堪能いただけたことと思います。また、帰路の途中、白馬五竜高山植物園では、園責任者の坪井勇人さんに栽培する国内外の高山植物についてご解説をいただき、盛りだくさんの２日間となりました。

調査団による調査は、気象や地質についても行われています。これらの成果はいずれ大町市の自然の新たな魅力として加えられるものと期待が高まります。

（市立大町山岳博物館　学芸員）

付属園だより

山岳博物館におけるライチョウの繁殖（その２）

宮野　典夫

動物園などでの鳥類の繁殖方法には、親鳥が卵を温めて親鳥がヒナを育てる方法と、卵を取り上げ孵卵器で温め人の手でヒナを育てる方法があります。今年は後者の人工孵化・人工育雛で行いました。

ライチョウの卵を乗鞍岳から採卵して孵化させた施設は山岳博物館と東京都恩賜上野動物園、富山市ファミリーパークで、情報を共有しながらライチョウを育てました。

今年の春までにそれぞれの園館ではメスが１羽とオスが複数いましたので、１ツガイずつを組み合わせる事ができました。このままのツガイで来年以降も繁殖を続けると、それぞれの園館にいるメスの系統の子孫に限られ、今後の繁殖に支障が生じてきます。その解消のために個体の移動を考えた時、生体での移動は例が少ないことと、昨年・一昨年で実績があり問題がないことがわかっていることから、受精卵での移動を行い、それぞれの園館での遺伝的多様性の維持を図ることとなりました。また、那須どうぶつ王国にも新たに受精卵を移動しました。

育雛の環境

ヒナを育てる場合、ヒナが親の腹下で温まれるような環境と、餌を食べたり運動したりできる環境を整える必要があります。この設備が育雛器です。温めてあげる温源室の温度は約38℃、運動室の温度は約20℃で、両室の間にはカーテンを施して保温効果を高め、ライチョウの往来をしやすくしてあります。

育雛器（左：温源室、右：運動室）

餌付け

ヒナが孵化した時には、お腹の中にまだ黄身が残っていて、これを栄養源にしているので、しばらくは餌を食べなくて大丈夫です。

足取りがしっかりし、ヨチヨチと歩き出すと、床や壁をつつくようになります。特に小さな点やゆらゆら動くものに興味を示します。この頃を見計らって餌付けを開始し、ピンセットで餌をつまんでヒナの前に持っていくと食べるようになります。

餌付け開始ころのヒナ

餌の内容（１週間まで）

山岳博物館では独自に設計した自家配合飼料を与えました。自家配合飼料はアワ、ヒエ、フスマ、コヌカ、きな粉、ナラの葉を乾燥させたものなど 21 種類の原料を混合してあります。これにリンゴの刻みを加えて食べやすくしています。配合飼料のほかに小松菜、スイバ、ギシギシ、ビルベリーの葉をビンに挿して与えました。

孵化後１週目のヒナ

餌の内容（１週間以降）

スイバ、ギシギシ、ビルベリーの葉を与えたのは１週間までで、それ以降は自家配合飼料、リンゴ、小松菜が定食でした。体重の伸びが悪い時などには、特別メニューとして虫の幼虫（ミルワーム）を与えました。ミルワームはとても好物で、虫を見ただけでヒナが群がってきます。

孵化後15日目のヒナ

孵化後23日目に自家配合飼料の内容を変え、高たんぱく・低繊維から低たんぱく・高繊維へとし、71日目からは、より高繊維の親鳥と同じ自家配合飼料を与えています。

砂浴び・日光浴

砂浴びは親から教えてもらうわけでもないのに、よく行う行動です。殺菌消毒した砂を容器に入れてあるのですが、１羽が始めると連鎖反応的に他の個体も砂浴びをします。

室内での育雛ですので直射日光は当たりません。そこで、育雛器の運動室天井あたりに、紫外線ランプを設置して照射しました。

砂浴び（孵化後20日目）

健康管理

日常的な管理では入室者の制限や舎内への持ち込み物の消毒、管理者の白衣・マスク・キャップの着用等をして、細菌やウィルスの侵入を防ぎました。

個体の健康管理では体重の変化や餌の食い込み状況、糞の状態をチェックするほかに、糞便検査を定期的に行い寄生虫や細菌検査を行いました。今まで寄生虫は検出されず、細菌検査でも常在する菌以外の検出はみられていません。

ライチョウの病理に精通している獣医師の往診も定期的にお願いをしています。

孵化後25日目のヒナ

育雛器から平飼いへ

孵化後34日目頃になると体重も200ｇを超え、育雛器では手狭になってきましたので、約６㎡の放飼場に移動しました。ライチョウは環境変化に敏感ですので、育雛器ごとコンクリートの床面に移し、ライチョウの行動や餌の食べ方が安定したところで運動室を外し、最終的には温源室も撤去して、コンクリート面だけでの飼育にしたのは孵化後約60日目でした。

孵化後38日目のヒナ

廃温

育雛器の温源室の加温をやめることを廃温といいます。孵化後48日目に廃温をしました。夜間は産まれてからずっと温源室をネグラにしていましたが、廃温後しばらくすると、放飼場のコンクリート面をネグラにするようになりました。

孵化後82日目のヒナ

上野動物園から山岳博物館への卵移動

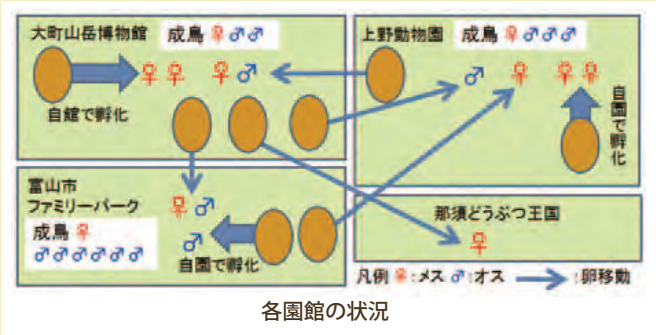
上野動物園からは6月15日に孵卵開始16日目の受精卵を3個譲り受けました。

移動は37.6℃に保った携帯型孵卵器に卵を入れて運びました。できるだけ短時間で移動するために、上野駅から長野駅まで新幹線を使いました。昨年までの卵移動は全て自家用車でしたので、列車での卵輸送は初めてのことでした。

上野動物園での受精卵受け取り

山岳博物館から他園への卵移動

山岳博物館のツガイのメスは18個の卵を産卵しました。このうち4個は山岳博物館で孵化させ、上野動物園と富山市ファミリーパークに3個ずつ移動させ、1個を那須どうぶつ王国に移動させました。残りの7個は後半に産卵したもので初期の発生中止が5個、無精卵が2個でした。



各園館の状況

来年の繁殖に向けて

現在、山岳博物館にはオス3羽・メス4羽、上野動物園にはオス4羽・メス4羽、富山市ファミリーパークにはオス8羽・メス2羽、那須どうぶつ王国にはメス1羽の計26羽（オス15羽、メス11羽）が飼育されています。

ライチョウは孵化の翌年には繁殖能力を持つようになります。来年の繁殖は環境省や日本動物園水族館協会と調整を図りながら計画的に進める予定です。（市立大町山岳博物館 指導員）

イベントのご案内

山岳博物館　市民「無料」開放デー

博物館では、毎月第3日曜日（家庭の日）とその前日の土曜日を「大町市民無料開放デー」としています。（これらの日については、大町市民以外の長野県民は団体割引料金でご観覧いただけます。）11月は18日（土）と19日（日）です。

木崎湖　冬のバードウォッチング

冬季は、湖や河川にカモ類などが集まるほか、落葉して見通しがきく林では小鳥たちの姿を見つけやすく、バードウォッチングに適した季節です。野鳥観察をとおして、身近な自然について学んでみましょう。

カイツブリ

□共　　催　大町山岳博物館友の会
□開 催 日　平成29年11月19日（日）
□時　　間　午前9時30分～正午
　　※多少の降雨（降雪）でも実施します
□定　　員　先着20人
　　※小学3年生以下は保護者同伴でお願いします
　　※平地を3km程度歩きます
□参 加 費　一般の方：500円　友の会会員の方：無料
□申し込み　11月15日（水）までに、電話または直接山岳博物館へ

博物館のひろば

つぎの方は、年間を通じて博物館の観覧料が無料です。
・大町市内在住の 65 歳以上の方
・大町市内の小学校・中学校に通う児童・生徒の方
（入場の際、受付にてお名前等をご記入ください）

「韓国国立山岳博物館・山林庁チーム」面談・見学

平成29年９月５日（火）

大韓民国政府の山林庁職員と同庁所属の国立山岳博物館の学芸員の一行６人が長野県山岳総合センターと当館に視察のため来館されました。

韓国国立山岳博物館は、平成26年11月、韓国ガンワン郡ソクチョ市に開館し、登山が盛んな韓国の人々の学びの場となっていますが、今回は国立登山学校の新規建設に先立ち、日本の先進地視察を行うことになったとのことです。

韓国に行く機会がありましたら、同国の登攀史を学べる同博物館に行かれてみてはいかがでしょうか。

【写真は一行から贈呈された各種資料】

「職業体験学習」を受け入れました 大町市立仁科台中学校２年生

平成29年９月７日（木）・８日（金）

仁科台中学校２年生２人が当館で２日間の職業体験学習を行いました。

当館では、学校教育におけるキャリア教育推進に協力しており、年間を通じて随時、市内や近隣町村の中学生や高校生の職業体験学習を受け入れて実施しています。当館で体験していただく仕事内容は付属園での動物飼育管理業務です。

動物飼育員の指導のもと、餌の調理・給餌、飼育舎の清掃、園内の整備という通常業務をひと通り体験していただきました。雨が降る日もあり、屋外での作業は大変であったと思いますが、今回の体験が今後の進路の参考となれば幸いです。

長野県山岳総合センター講座「もっと知りたい、大町の山！」に講師を派遣しました

平成29年９月９日（土）・10日（日）

長野県山岳総合センター主催の講座「もっと知りたい、大町の山」（全２回）シリーズ②「湯俣へ 近代登山と電源開発の道を辿る」に、当館の職員を講師として派遣しました。

本講座は、同センターと山岳博物館との連携事業として、高瀬渓谷の自然を散策しつつ、途中、発電施設を見学しながら大正時代から始まる当地域の電源開発の歴史や近代登山の歴史を学びました。最終目的地である国の天然記念物「湯俣の噴湯丘」も元気に噴煙をたなびかせ、参加者にとって、自然の美しさと自然を活かした人々の営為を感じる機会となりました。

【写真提供：県山岳総合センター】

「公益財団法人とやま環境財団」の皆さんが研修事業として来館されました

平成29年９月14日（木）

公益財団法人とやま環境財団は、富山県民・企業・行政が一体となって平成3年に設立され、身近なゴミ問題から地球環境まで幅広い取り組みを行っている団体で、小学校などへの環境教育等を実践されています。立山・室堂などでの自然解説事業も行われており、今回の研修では、大人43人の皆さんが来館され、主にライチョウの生息する環境の変化や博物館で行っている低地飼育の成果などを熱心に学ばれていきました。

長野県同様、水と緑に囲まれた富山県を、県民一体で守っていくんだという心意気が感じられ、頼もしい思いを感じました。

共同企画展の「ミュージアムトーク」を開催しました

平成29年９月17日（日）

８月から開催している共同企画展「北アルプスの百年 百瀬慎太郎と登山案内人たち」の関連催しとして、大町登山案内人組合所属の登山ガイドを講師にお招きし、展示会場でお話しいただく「ミュージアムトーク」を会期中に実施しています。企画展初日の第１回目に続いて、９月中に第２回目を開催。今回は副組合長の松澤啓さんから、組合のあゆみや現在の活動、山の魅力や安全登山のアドバイスなど、ご自身の経験にもとづく貴重なお話をうかがいました。次回の開催予定は、11月３日（金・祝）です。ぜひご参加ください。

「学校との連携授業」を行いました 大町市立八坂小学校６年生

平成29年９月28日（木）

八坂小学校６年生６人の博物館見学学習が、①理科の「大地のつくりと変化」の単元に活かすこと、②自然の雄大さや太古の歴史について考えることを目標に実施されました。

館内全体の見学後、化石や岩石の標本にふれながら、生命の歴史と北アルプスの生い立ちを学習しました。その後は、川砂からざくろ石や石英をみつけてミニ鉱物標本づくりに熱中、幾人かは微小ながらサファイアもみつけることができました。

展示見学と実習をくみあわせた学習もできますので、ご相談ください。

編集・発行
市立大町山岳博物館 OMACHI ALPINE MUSEUM
— 創立 1951 年 —

〒398-0002　長野県大町市大町 8056-1
市立大町山岳博物館　編集責任者　鳥羽章人
TEL. 0261-22-0211 FAX. 0261-21-2133
✉ E-mail:sanpaku@city.omachi.nagano.jp
URL:http://www.omachi-sanpaku.com

11月号
第 62 巻 第 10 号
2017 年

発行日　2017（平成 29）年 10 月 25 日

印　刷　有限会社北辰印刷
〒398-0002 長野県大町市大町 3871-1
TEL.0261-22-3030 FAX.0261-23-2010